



かつ み けん じ  
**勝見健史**

小学校教員養成特別コース教授

小学校高学年では、一部教科担任制が行われています。その目的と注意すべき点は何でしょうか。

**小** 学校高学年に教科担任制が導入された背景として、第一に、子どもの発達段階を踏まえた教育の改善があります。子どもの発達に関する知見では、4年生前後を発達の区切りとして見るものが多く、高学年の従来への指導に工夫・改善を加える必要があるのではないかと考えています。第二に、学校間の連携や接続の改善です。いわゆる「中1ギャップ」といわれる生徒指導面での表れや、学習理解面の小中の落差は、学習方法や円滑に新しい環境へ移行できていないことが要因の一つではないかという考え方です。

一方、教科担任制によって、各教員の得意分野がスペシャリストとしての専門性として生かされますが、小学校教員

のジェネラリスト(子どもと生活を共にしながら丸ごと成長を捉え支援していく)としての特徴的な専門性がないがしろにならないかという点を留意しなければなりません。小学校教育の良さを生かしながら教科担任制を実施するには、年度当初の一定期間は学級担任制でスタートし、その後、教科担任制へ段階的に移行するなどの工夫が必要です。

兵庫県では、小学校高学年で「教科担任制」と「少人数学習集団の編成」を組み合わせ

た「兵庫型教科担任制」を実施しています。そこでは、教員の組織的・協力的な指導体制の促進、子どもの学習意欲の向上や学習理解の深化などについて、実施期間が長い学校ほど効果があると報告されています。教科担任制は、各学校が規模や実情に応じて、子どもたちの育ちに機能するシステムとして絶えず更新・改善し続けることが大切です。また、中学校側の授業改善や1年生の受け入れ体制の工夫と連動することも重要でしょう。



キャンパストピックス

CAMPUS TOPICS

新年度を迎え  
3つの新組織が発足

4月1日、加東キャンパスに「教育実習総合センター」「国際交流センター」「ボランティアアステーション」を開設した。

教育実習総合センターは教職大学院の学生への修学支援と、本学を代表校とする6大学が連携・協働して教員養成高度化システムモデルを構築する取り組みの中で必要とされる大学院レベルの実習を効果的に運営する役割を担っている。

総合研究棟1階に開設した国際交流センターは、本学の国際交流の中心的な役割を担う。国際社会に開かれた大学として、留学生や外国人研究者の積極的な受け入れ、学生の海外派遣など、国際交流活動の推進に取り組む。



◀国際交流センターの教員と留学生

大学会館3階にオープンしたボランティアアステーションは、教職キャリア開発センターのボランティア活動支援部門という位置付け。スクールサポーター等の学校支援、昨年度まで「NANAつくす活動室」が取り組んでいた不登校児童生徒支援、東北の被災地の復興支援、生涯学習(社会教育)支援など、学生ボランティアに関する情報発信、相談・指導を行っていく。



▶ボランティアアステーションの開所式



▶教職大学院の学生への修学支援を行う教育実習総合センター